



東洋大学社会学部における 図書館情報学教育

東洋大学社会学部

海野 敏

2019年3月9日 日本図書館情報学会シンポジウム
「図書館情報学教育の現状とこれから」

目次

1. 本講演の趣旨
2. 学科の沿革と位置づけ
3. 学科のカリキュラム
4. 卒業後の進路
5. 今後の課題と展望

本講演の趣旨

- 東洋大学社会学部メディアコミュニケーション学科における図書館情報学教育の実践
- 司書資格教育を行っていない
- 図書館員の養成を行わず、図書館情報学教育をどのような位置づけで、どのように行っているのか？

2. 学科の沿革と位置づけ

学科の沿革

- 1959年 社会学部応用社会学科(図書館学専攻)
 - 3専攻＝図書館学、マスコミ学、社会心理学
 - 図書館(情報)学関連科目、約50単位
 - 大学図書館員、公共図書館員が多数輩出
 - 設立時から独立学科を目指す
- 1980年代後半から 図書館への就職が困難に

学科の沿革

- 1990年代後半 学部改組の検討開始
 - － 図書館専門職養成の独立学科は、時代の要請に不適合
 - － 「司書」資格はインフレ(供給過多)状態と認識
 - － 本学で「司書」養成を止めても、「司書」供給に支障ない
 - － 学生にはより時代に合った教育プログラムを提供すべき
 - － 図書館学専攻は、マスコミ学専攻と合同で新学科を構成することに決定

司書資格取得者と就職者

- 『日本の図書館情報学教育』1995, 2000, 2005

年版	資格取得者	就職者
1995	10,187	402 (3.9%)
2000	11,139	200 (1.8%)
2005	10,898	—

単位 人

学科の沿革

- 2000年 社会学部メディアコミュニケーション学科
 - － 新学科では、新しいアカデミックプランを実現するために情報学(図書館情報学)の専門的な科目を配置
 - － 司書養成科目の開講をすべて取りやめた



メディアコミュニケーション学とは

- 情報と、それを伝達（コミュニケーション）するメディアは、わたしたちの社会で
 - どのように生産され、
 - どのように流通し、
 - どのように組織化され、
 - どのように利用され、
 - どのような効果・影響を与えるのか？

メディアの多様性

- マスメディア
テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、書籍、広告、...
- パーソナルメディア
電話、手紙、声、表情・ボディランゲージ、...
- ネットワークメディア
メール、ブログ、ソーシャルメディア（SNSなど）、
サーチエンジン、オンラインデータベース、...
- エンターテインメント／アート系メディア
音楽、映画、演劇、ダンス、ゲーム、...

学科のカリキュラムポリシー（抜粋）

- メディアの現在に関して社会的な意義と機能を知り、学術的な知識と現況分析のための理論を学修
- メディアの過去に関して歴史的な発展と進歩を知り、客観的な知識と歴史認識のための視野を学修
- メディアの未来に関して社会的な展望と課題を知り、創造的な知識と課題解決のための手法を学修
- メディアを活用し、多様なかたちで情報を企画、制作、公表するために必要な技能を学修
- メディアを活用し、多様なかたちの情報を検索、分析、評価するために必要な技能を学修

学科を構成する専門領域

- **情報学**
 - 情報概念による世界・社会の研究
- 社会情報学
 - 社会における多様な情報現象の研究
- マス・コミュニケーション学
 - マスメディアの機能と効果の研究

図書館情報学から情報学へ

- 情報学

- 「図書館」を冠さない
- 情報工学(情報科学)ではないが関係領域
- 社会情報学ではないが関係領域
- 情報概念による世界・社会の研究
- 英語は“informatics”

学内における学科の位置づけ

- 多様な情報現象を、社会と人間のかかわりの中で理解する
- 文系のアプローチを重視
 - 総合情報学部(2009)、情報連携学部(2018)との違い
- 社会学、社会心理学と関連
 - 社会学部の学科として位置づけ

3. 学科のカリキュラム

現在の教員構成

- 定員16名＝専門11名＋語学4名＋助教1名
 - －情報学 4名（＋助教1名*）
 - －マス・コミュニケーション学 4名
 - －社会情報学 3名
 - －語学（中国語、英語） 2名**
 - －語学（有期 外国人） 2名

* 助教1名は、特定の専門領域に固定しない

** テニユアの語学教員2名は専門領域の研究者を採用

専門科目

- 基礎科目

- 情報学基礎論 A(必修)・B(選択)
- 社会情報学基礎論 A(必修)・B(選択)
- マス・コミュニケーション学基礎論 A(必修)・B(選択)

- 演習科目

- メディアコミュニケーション学基礎演習(1年次 必修)
- メディアコミュニケーション学演習Ⅰ(2年次 必修)
- メディアコミュニケーション学演習Ⅱ(3年次 選択)
- メディアコミュニケーション学演習Ⅲ(4年次 選択)

「情報学基礎論A・B」

- 情報と人類
- 情報のデジタル表現
 - 2進表現、ビット列、A/D変換
- 情報と知識
- 情報・知識の社会的伝達
 - メディア論、情報組織化
- 情報社会の可能性と危険性
 - 情報の充実と過多／活用と悪用／共有と専有
- 情報社会の深層
 - 情報化による自我・関係の変容、情報化による消費社会化
- 情報の遍在
 - 生物と情報、社会的情報
- 物質・エネルギー・情報
 - ギリシア哲学、近代科学、相対性理論、サイバネティクス、チューリングマシン
- 情報の数量化
 - 自己情報量、エントロピー
- 情報としての記号・言語・知識
 - シグナルとシンボル、機械学習、人工知能
- 情報概念の定義

実習科目

情報ネットワーク論および実習	ウェブ情報処理および実習Ⅱ	社会調査および実習A	映像メディア制作A	マスコミ文章作法A
データベース論および実習	ウェブ情報処理および実習Ⅲ	社会調査および実習B	映像メディア制作B	マスコミ文章作法B
プログラミングおよび実習	ウェブ情報処理および実習Ⅳ			

情報学系

- 情報数理
- 情報組織化論
- 人間-機械
コミュニケーション論
- 情報と言語
- 情報モデリング論
- 計量情報学
- 情報分析論

- 身体
コミュニケーション論
- 情報メディア史A
- 情報メディア史B
- 情報メディア論
- 社会情報システム論
- ウェブ情報システム論
- 知財・情報法制論

社会情報学系

- 災害情報論
- インターネット社会論
- 環境メディア論
- 情報倫理概論

マスコミュニケーション学系

- 多文化
コミュニケーション論
- コミュニケーション論
- PR論
- 広告論
- 消費情報論
- 大衆文化論

- ジャーナリズム論
- マスコミ倫理・法制論
- 世論
- 新聞メディア論
- 放送メディア論
- 雑誌出版論

- アートとメディア
- エンターテインメントとメディア
- スポーツとメディア
- ジェンダーとメディア

省令科目

No.	区分	科目名	単位数
1	基礎科目	生涯学習概論	2単位
2		図書館概論	2単位
3		図書館情報技術論	2単位
4		図書館制度・経営論	2単位
5	図書館サービスに関する科目	図書館サービス概論	2単位
6		情報サービス論	2単位
7		児童サービス論	2単位
8		情報サービス演習	2単位
9	図書館情報資源に関する科目	図書館情報資源概論	2単位
10		情報資源組織論	2単位
11		情報資源組織演習	2単位
選択科目	(2科目選択)	図書館基礎特論	1単位
		図書館サービス特論	1単位
		図書館情報資源特論	1単位
		図書・図書館史	1単位
		図書館施設論	1単位
		図書館総合演習	1単位
		図書館実習	1単位

情報学基礎論
 知財・情報法制論
 社会情報システム論
 情報と言語

情報メディア論
 情報組織化論
 情報分析論
 情報数理
 計量情報学
 情報モデリング論
 ウェブ情報システム論
 データベース論および実習
 情報ネットワーク論および実習

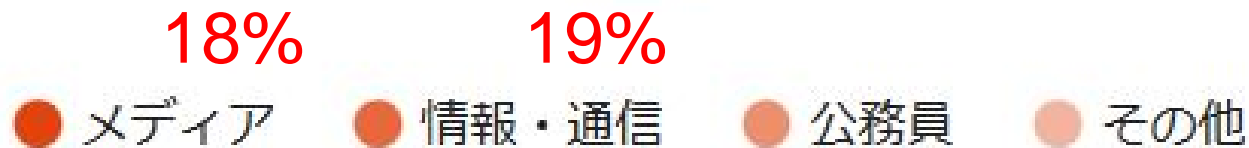
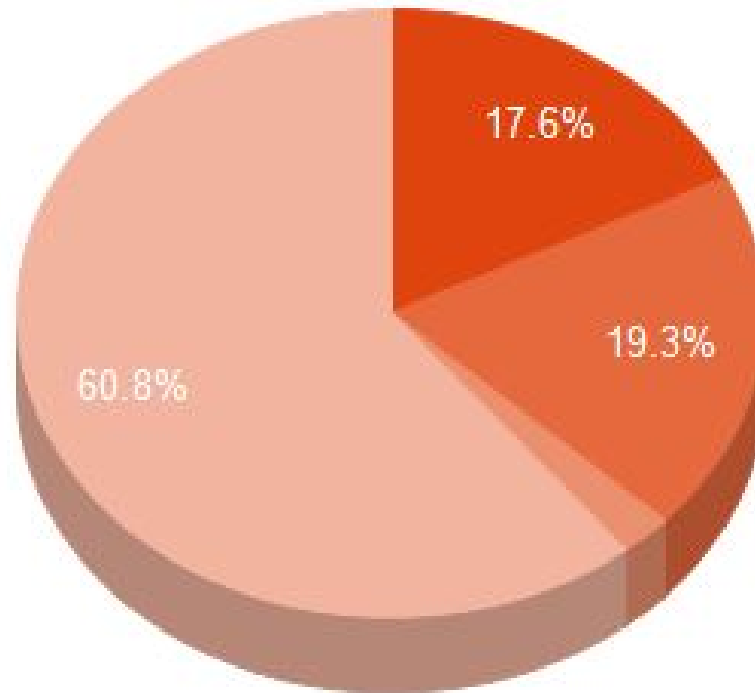
情報メディア史A・B

専門科目

4. 卒業後の進路

卒業後の進路

業種別 2013年3月～2017年3月卒業



卒業後の進路(業種)

- マスコミ関係

テレビ局、テレビ番組制作会社、新聞社、広告代理店、出版社、編集プロダクション、ネットジャーナリスト、・・・

- コンテンツ関係(映像・音楽)

ゲーム制作会社、アニメ制作会社、音楽会社、・・・

- ICT関係

SI(システムインテグレータ)企業、ウェブ系企業、データベース系企業、印刷系企業、・・・

- その他

一般企業、公務員、中・高教諭、大学院、・・・

5. 今後の課題と展望

課題・展望

- 社会の変化
 - － 情報化（デジタル・ネットワーク化）のさらなる進展
 - 印刷資料の社会的機能の縮小
 - － 人工知能（AI）のさまざまな領域への導入
- 就職先の動向（出口）
 - － 既存マスコミ業界の縮小
 - 出版、新聞、テレビ
 - － コンテンツ制作業界の需要増
 - － SEの需要増

課題・展望

- 受験生の実態（入口）
 - － エンターテインメント業界、タレント指向
 - － マスコミ離れ、ジャーナリズム離れ
 - － コンピュータへの関心低下、パソコンの技能後退
 - － 読書体験の貧弱化
- 学科運営の課題
 - － 受験者の確保（入口）
 - － 就職キャリア支援（出口）
 - － 他学部・学科との差別化
 - － 「情報学」教員の確保

課題・展望

- 社会（出口）と学生（入口）の意識の一致
 - － 社会（就職先） ……既存マスコミ業界の縮小
 - － 学生（受験生） ……マスコミ離れ
- 社会（出口）と学生（入口）の意識の乖離
 - － 社会（就職先） ……情報化の進展
 - － 学生（受験生） ……コンピュータ離れ
- 双方の期待に応えつつ、情報学の専門教育を行う
 - － 学生へ情報化社会の実態と変化の方向を示す
 - － これからの社会人に必要な知識と技能を教える
 - － そのなかに図書館情報学の中心領域を位置づける

図書館情報学の中心領域

- JSLIS『図書館情報学教育の拡がりと今後の方向性に関する調査報告書』(2017年3月)結語より

「図書館情報学の中心領域は、情報・知識の社会的な実像に関して、情報・知識の単独性と普遍性の両方にまたがっている。言い換えれば、図書館情報学は、情報・知識の計算不可能な実体と、計算可能な属性の両者に配慮して遂行される極めてユニークな領域なのである。図書館情報学の教育・研究は、このような中心領域を堅持することでアイデンティティを保ちつつ、今後も時代と社会の要請を受けて、柔軟かつ積極的に領域を広げ、他領域との協同を続けることが求められるのである。」